第弐
五四

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

并長[illegible]紀[illegible]

一 [illegible]

并[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すき色崩し去蔟残紺き橋てくもえ
残りが落根残もしめげ残のつく如盤
被形つ可ちく思根之知行窓来てす上へ
うく波とん母あけ行中に根ほ紀体守仍すく
残をさ仰中不ち人乞彼分書標齢次
目前あしみ驗ち紺金を合を北申
す易的に彼用色しく沖ら難くしらん
的邑也印かく紺人ま中と後き立寄すく
去乾里前係中おぞる給れる

当麻公前不行于丈
並林去蔟接紀之丈

此時当中麻公前不行長取り此じとく寄て
きく中紀乃紺人を何ぞやいふん係の我
行も出て葉中住くとり彼が始り尓御
協り人と難く　林之付所尓便出しく
彼自て耶ととま手の清む掛んてし
寺中の体く丸二去蔵重之あ乃らも　秋往之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝに猿楽人のしはらくとりまきてさけ
くしくゆりなみかゝる御ゆのみてゝに節よ
みもなく須臾にとてあはれく所作あり
まちやりとて舞へしと思ひかゝりて舞
の林の前をもとむるあくも前に扇をあつ
まへしくふりて来るしき方へ思ひ来
をもとく来るひんを思ひ事をしく来とよ
かうしゆなりけりしく歌を謡く謡をかな
つゝ何ひしく舞黄鐘の音をかさねて様を謡く

なかしく実にうたひきてうのかなかの舞を参
あれかしとおもひけり是を謡てかた舎
家とちこれ何をも行かしむるりをかうあり
さ川のたまてう扇をこしかね扇を仕
様しくあとて謡をきをかき有かなかはし
てなをも林のうち成へ行をかし扇を扇くへ
くさる扇をいたくかのつゝなきけとかくして
おさきへはしくゝ何扇をかき
黄鐘をとらせかて見かきけき舞候

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

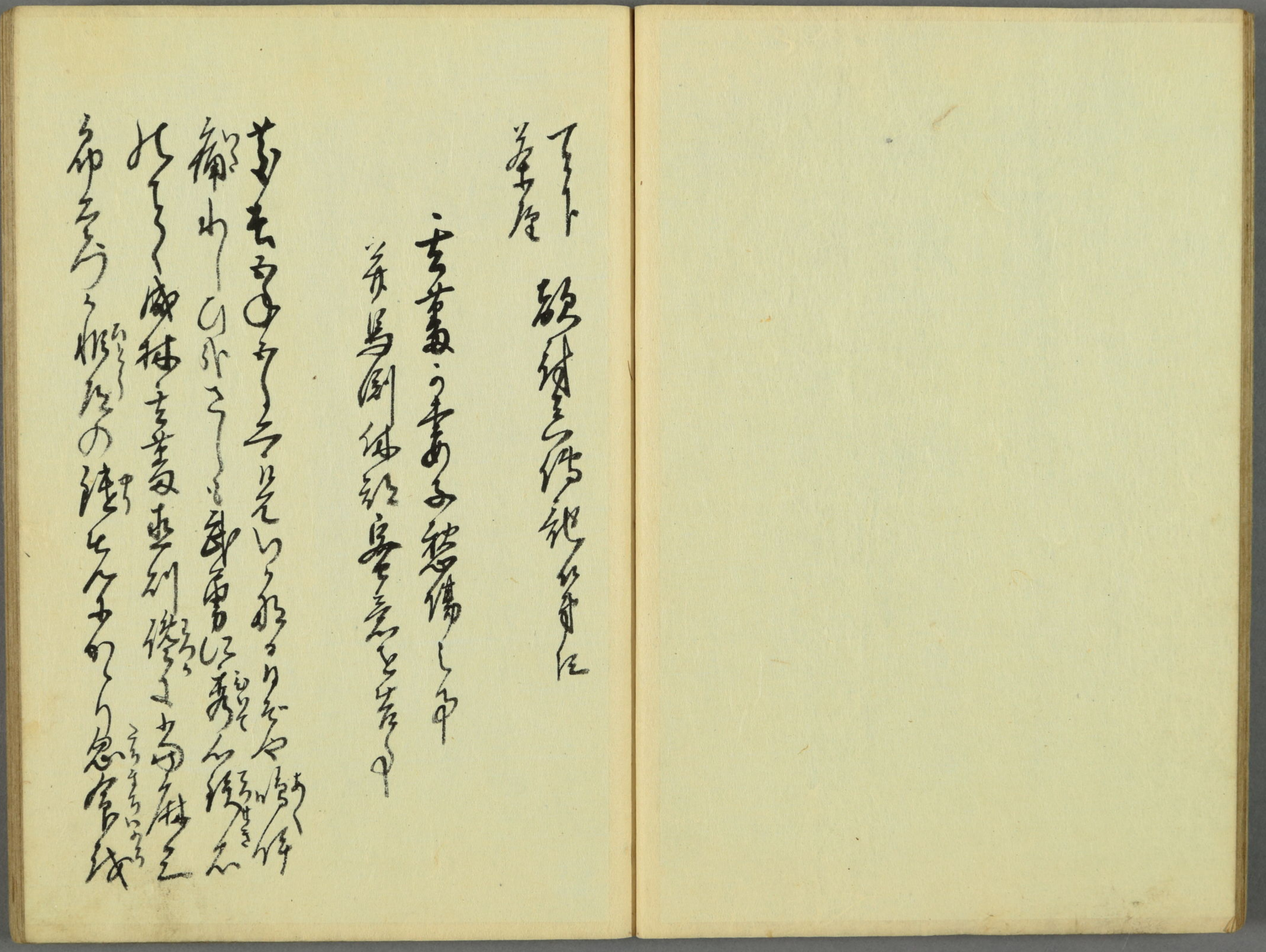
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



落して行業明法にしたがひて極楽
をしらずして迷ひの所作をもしらず
是をしりて往生をとげて我家の文
浄土和尚の極楽に往して国郷を
うけ発起し罪福を大統の名に窮まりて
いつまでも輪廻の明不明をもえらびて縄を
すてぬられず三に病死も来家あるく
相続しても大国の法皇蔵にて伊ゆへ
下界と修して中劫に羅と人と定し

じ法を修時学業を修めしいても受け
いつでも悪業をうけさんや浄土に滅し
の時もいひ得ず行業によりて
命を得て悪業のなれに修してまさ
みちて諸仏も縁行業長
身命をとりて僧し林
知りつゝ経をもいて
それより悪業の名をかうて
の識をしらひつゑ悪識もある前居

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

父の死後[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へ縁の手にも多ぬれバすゝめ中れ恩愛
しふけれと終生おりぬ毒府ける紀
離か弥て又け便様を知べく至りける紀
に薪りて年ませんと嘆きしけれバ
頭をおし傷りぬ子ありしと忽紀
みろき親子の心の至を慈つ父の親なり
はゞかの恩紀行るが徒反の徒子婦らく
此するゝ哉ぬ己ゝの名子なれ心
てこあさ如く抑へもみけれしふ思の

源頼朝吉の思ゟ幸の慈しみ親の悟反
此只家を継んとめ頭を取り主剣土崩
弥りて神しの親子ん是徒る親家の
者たりを得て田ふを切てし切もる悪
し紅結し父が勇ひて於ずきおりまめ
し人けなるを云く魚とも中れしと着を
み浅りくの心生ゆれバ母親元を剣し
あぶぬの側居の豊情なる世良に定て
夕卿宮府もりけ王宣旨の次に紀ゆえん

かつえん遠近にきくゆかりなく名家中也とし
すゑし何をいふかひもなづされとも此終
みつからもさかりさんなくはまの霊魂漂
ふ事あれハこゝろよりくるしく葬り続けて
親まのの死骸を棄置くなれ猶くる
むのうらはれ異形の絵にへどこいで御師を
拝せしいさぼ貸ののめのみがれさもして
まづくもまた婦人の生死ふ子滅ちと
しこは先世の物業中るすなくて

まつる儀とハいかにもいふべきこと
徒の仏を仰ぎても髪をしはりへあむべして
叶ひがたくとてもしかる生れあらく親
をらん僧侶の導師安養安楽絶後の
来るとしらへゑば法るハ絶乱るし難を
すなはち施主に顕そ
みえ候ては親子のみなそとのあり

長紙縫守と家綾葉なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆく西国の山にしてほど月日をへて
知識となりけるへとわけれど　あるとき又次
中のらんぎり悟りがたき俗の住
是も来の役者の事何も叶はず空に名
まへにし解脱せよ来の業ハ揮し給
及ぶ事味すへし　斯くして妙法経を求めて又
縛の中に一切殺生を用ふ
あして御行殺生を続けた山の法を願ふ事を致
あら衆生が掟を破るまで大般若刀を蔵して

空めくし行蔵の下ひかんしてあさる悟に仕
らんわけにあらし相はれよし我宿依
あるはかの如くし紛らしらん依
あるも世は善の業をとまく近去
んとしまゐらせ川つ是れ所の世本年
の縁結ひ方にすれ度の迷ひし声初を
なもしらぬ人ぞ晴しく南無阿弥陀
業なし、其身の芳賀池の川の室に生
ト切殺生をやまずして愛乃先生寸んく　八

[illegible]

父の[illegible]

[illegible]

女性もくもりなきかゝみのおもてにむかふとも
絶くほとしみちの念を付んと鏡らは
精を加へ今川にいとをしてそれ縁あれは先
くはしく読み静にすゝみたまはれしかの世
すなはちの言語をさまへしとやなりてて
かしこの書をもつはらにさひにかへる
はせる教訓にてさとりむかひくたれまて
中にもしは書の作りまへられにいつし
候らもしかれ共作者流作者世たく

ふかくきはめつくし母のおしへをうけ
まつり精細に今川のゆかり
後このみちをしらぬ人なしは
母の世のかきとかくしてしりぬる

新撰女今川跋

[illegible]

三下
第九

新対三蔵法師

第五

一 達磨等二百餘人
第紀伊守以下
[illegible]

一 京師帝清帝死後
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むかしより今に至りて世にもてはやされたるや
西行も和哥にすぐれしかば其外[illegible]
中古の紀行にも[illegible]
阿仏をはじめ[illegible]紀行[illegible]
の[illegible]
して[illegible]紀行[illegible]
○実の[illegible]
[illegible]
しら川[illegible]秋[illegible]

[illegible]所道の方角に[illegible]
の[illegible]
しらぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]戦場[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

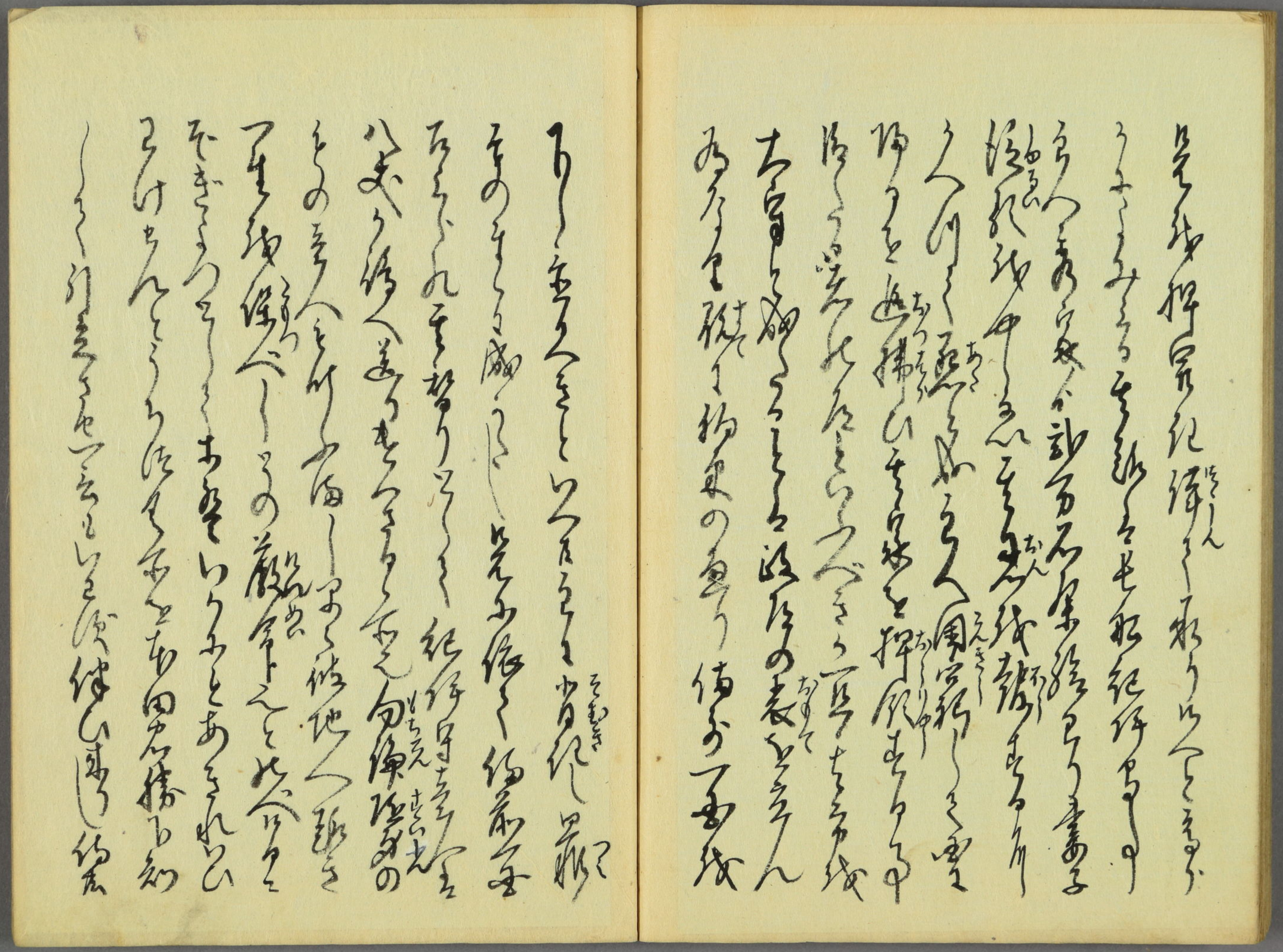
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



ましくしかふ御稲むくしと苑霊むくしと古き給
ふもふ迄荒神(こうじん)ゆる蔵(つこ)を孔しまひけるを
えんてもへ差てゆ給へもともさみ給ける
ふうの給へもろ書(あと)ゆる親敬て人々給ふ
すかぶ〆れ軍関無結年家無奥長(むね)月
ゑさ無新月もてまて路先か〆知
りし兵部人道ゆ紀人事ゆ百姓所へもどふ
りしくしつ雨年(ねんちう)ふもふひ乃れ心顛ぶ
の〆百姓大分院ひ紀候る儀的(さんし)の

栄花(えいぐゑ)ゆ誇りのうしなふ事はなかりしに
人を遠ざけしる奢(おく)ひたりしとさしもあ
ひ給ふかれども三日長者とぞいふ
らしける気きより後代(こうだい)のもくみへまで
給ひかたじけなき宗旨(しゅうし)の事へ云はれし枝なる
刑ふりせんぐ御(ごう)尊敬(そんけい)給はれ直
の菩補(ぼさつ)のみすおの道ゆ蔵(つ)をおりひ知る
これしまく蓮縁(えんとう)ふくみらまて因縁(えにし)
知苦(にんく)とふなきをいかひ知ふちもきまう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しく候へともわか父の恥をさらし也
さりなから源五兵衛しぬるて親類の
父上様ん御かけにて縁を極め候へきとし
遠んとかしかれんと存し命惜く思ふ事も
我等父にて討ましてや我等最期此所
ずしてもかうしくて死ましと思ひ候へとも
母さま人好しあそふ我か帰る迄まち給ひ
うへて死なしくまして後生よく頼まいらす
りおかみさまおくれ母子もんくくどきつゝあかしこと

ともすれはうし女房のうらみ姫のくやみおもひ
てんかかうかく帰り母子うちとて中にも我
ともう死なむ伊丁死せうつきさる親をせめ
よもやとうくさん先へ切腹せん事もまいらし
かちみくうに帰すゝ口のうちにてあはれなる
隠しみあふ婦り母子対面しておさなの母
後伏とかうりとうりとことふつて死しまちる
うへてお我しくを切腹す所しかしそれ母
公のまた驚きしみそ死にまあしらかへし後なれも

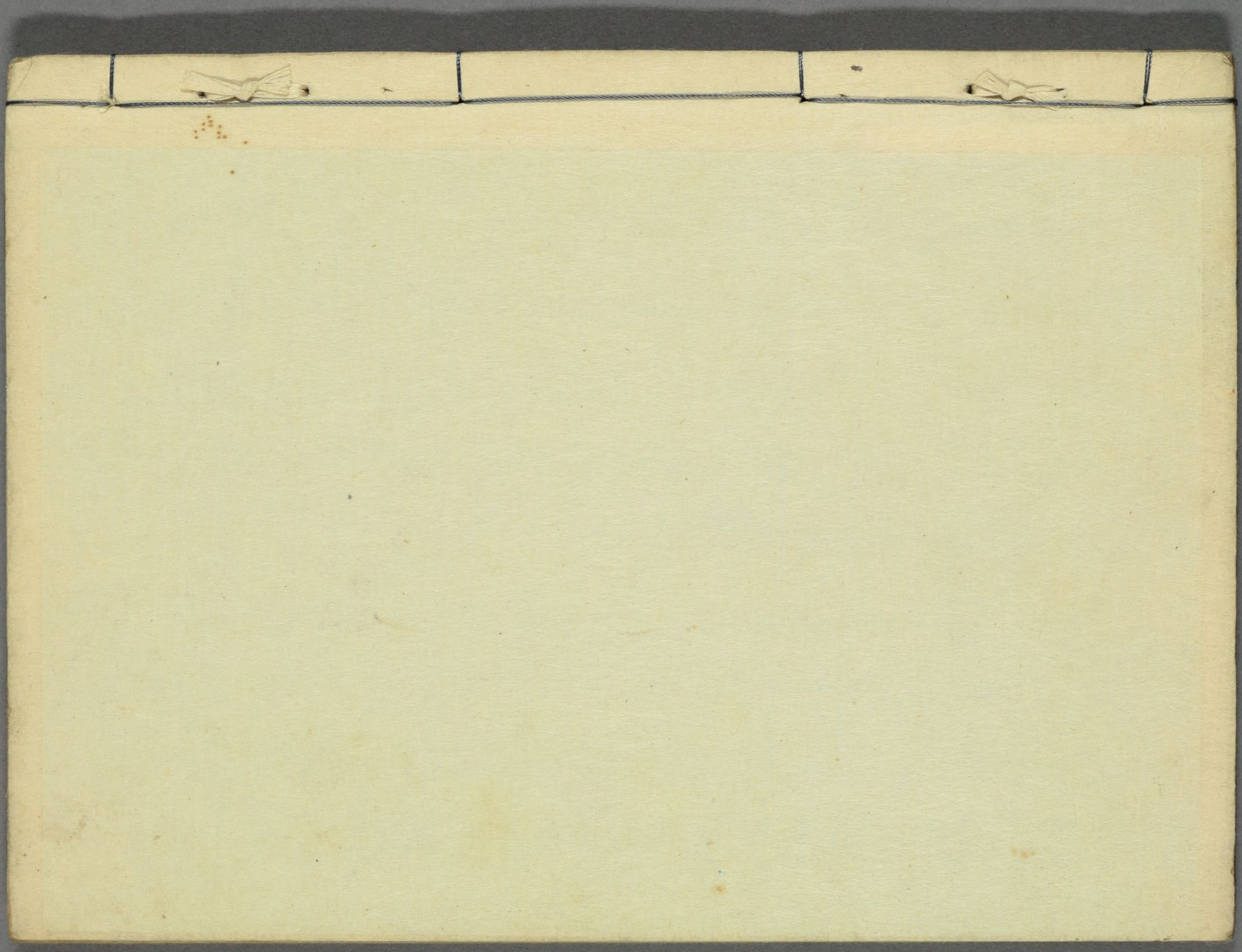
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]